

東京を築いた人～後藤新平～

東京の復興に尽くした後藤新平の働きからよりよい地域社会を考える

平成 28 年 8 月 18 日 (木)

知識の構造と育てたい子供の姿 (丸数字は取り扱う時数)

【学習指導要領】

社会科 第3学年及び4学年

「2 内容」

(5) 地域の人々の生活について、次のことを見学、調査したり年表にまとめたりして調べ、人々の生活の変化や人々の願い、地域の人々の生活の向上に尽くした人の働きや苦心を考えるようにする。

ウ 地域の発展に尽くした人の具体的事例

中心概念

関東大震災で大きな被害のあった東京のまちを、災害に強く衛生的な生活ができる都市として復興するために、後藤新平や先人たちが計画を立て、様々な苦心を重ねてまちづくりを実現した。このことは現在の東京のまちの基礎となり、自分たちの生活の向上につながっている。⑨⑩

具体的知識

関東大震災が起こり、五万人を超える人が地震や火事で亡くなった。①

後藤新平は、大震災後の東京を立て直し、よりよい町にするための計画をたてた。②③

よりよいまちづくりのために反対にあいながらも区画整理と道路整備を行った。⑤

橋は災害時にも使えるように木製ではなく鉄筋製のものを整備し、美観にも配慮した。⑥

学校を地震に強くするために鉄筋コンクリートで作り、衛生にも配慮し水洗トイレや水道を敷設した。⑦

より衛生的な都市を目指して、上下水道は地下に埋められ、近代水道の基礎を作った。また、くずれにくく、燃えにくく、衛生面で整備された住宅として、アパートを建築した。⑧

後藤新平の業績は、現在の自分たちが住んでいる東京の基礎になっており、後藤新平の理念は、今の（これからの）東京をつくる人々にも受け継がれている。⑪⑫

用語等

関東大震災 東京市

復興計画 復旧・復興

区画整理 道路整備
昭和通り

隅田川橋 復興大公園

復興小学校
鉄筋コンクリート
コミュニティ
復興小公園

伝染病 コレラ 赤痢
下水道 共同溝
バラック
同潤会アパート

都市計画
放射道路
環状道路

..... =ふかめる

育てたい子供の姿

私たちが今のように、快適で安全に過ごすことができるのは、後藤新平さんや、たくさんの人々がよりよいまちにしたいという願いをもって工夫や努力をして計画を立てて、まちをつくったからなのだ。その思いや願いは今の東京のまちにも生きている。私たちは、これからもそのまちでくらしていく。よりよいまちをつくっていくのは私たちが。

1 4年部会研究主題について

大会主題にある「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を培う」ために、4年生の段階では、よりよい地域社会をつくろうという思いや願いをもち、工夫・努力、協力している人々の働きや地域社会を支えている社会の仕組みや特色、意味などを自分とのかかわりで考えることが重要である。そのためには、その考えを友達や地域の人と表現し合うことを通して、深めていくことが大切と考え、4年部会の研究主題「よりよい地域社会について考えようとする子供の育成～自分とのかかわりで地域社会をとらえ、表現しながら考えを深める指導の工夫～」を設定した。

2 本小单元における研究主題とのかかわりについて

本小单元における学習は、以下の学習指導要領小学校社会科第3学年及び第4学年内容（5）ウ内容に基づいて設定された。

本小单元の、具体的事例としては、関東大震災後に復興事業にリーダーシップを発揮し、現在の東京の礎を築いた後藤新平を扱うこととした。後藤新平は、都市づくりに力を注いだ人物であり、大正12年9月1日に起きた関東大震災で大きな被害を受けた東京のまちを「復旧ではなく、復興だ」という強い信念をもち、衛生面や美観も考慮しながら、地震や火事に強い整った東京のまちづくりを短期間で成し遂げた人物である。

本小单元では、まず、自分たちが暮らす東京のまちでも大きな地震があり、まちが機能しなくなるほどの大きな被害を受けたこと、その被害を乗り越えて当時の後藤新平が東京の復興を果たしたことに関心をもたせたいと考えた。そのうえで、後藤新平が復興に果たした働きや強い信念を具体的に調べることを通して、よりよい地域社会をめざして尽力した人があって、現在の自分たちの東京があること、現在もまちづくりをしている人がいることを学び、自分たちの暮らす東京に対する誇りと愛情を育みたいと考え、教材化を図った。

3 研究の視点について

（1）知識の構造と育てたい子供の姿

本单元の中心概念を定め、その概念を獲得するための学習内容を知識の観点から順序立てて構造的に整理し、育てたい子供のすがたを具体的にイメージできるようにした。（2ページ参照）

（2）「ふかめる」段階の設定

* 「ふかめる」段階

「ふかめる段階」では、現在の道路計画「三環状道路」を取り上げた。都心と首都圏を環状線と放射線状の道路で結ぶという構想が、約90年も前に後藤新平が考えた道路計画と似ていることに気付かせ、後藤新平という人物のすばらしさを共感的に捉えられるようにした。さらに現在の東京都の都市計画に携わる方から話を聞き、後藤の業績との共通点を考えることを通して、後藤の思いや願いは現在も受け継がれていることや現在も努力している人がいるということをつかえられるようにした。

そのような人の姿を通して、子供たちに、これからのよりよい東京都をつかっていくのは自分たちであるという意識を高めたいと期待して設定した。

(3) 社会認識を深め、参画意識を培う教材の開発

①関東大震災により東京で大きな被害にあったことについて、

自分とのかかわりが意識できるような教材

- 驚きをもって自分とのかかわりが意識できること

→被害の状況が分かる地図と写真、自分の住むまちの被害写真、被害に遭われた方の話

震災当時と復興後の写真の比較

- 後藤新平について疑問をもてること

→後藤新平を紹介する映像資料

②後藤新平のまちづくりとまちづくりへの思いや願いが、 具体的に理解できる教材

- 道路整備

→震災前後の道路の写真、区画整理地図、反対者のエピソード、永田秀次郎の「市民諸君に告ぐ」という演説をもとにした吹き出し

「われわれ東京市民は今やいよいよ区画整理実行にとりかからなければならぬ時となりました。・・・子孫の幸福を考えるならば、再びこの災いを受けない工夫をしなければなりません・・・。」

- 橋梁の整備、復興大公園

→隅田川にかけられた様々なデザインの橋の写真、絵図、隅田公園、

- 復興小学校、復興小公園

→震災前後の校舎の写真、復興小学校のイメージ図、理科室、シャワー室、水洗便所の写真、建築家佐野利器が語る吹き出し

「大事なことは、まず燃えないこと、そしてくずれないこと。そしてもう一つは、衛生的であることです。そのために、鉄筋コンクリート製にしました。柱も太く多くしました。カーブが多いのもデザインではなく、地震のゆれに強くなるからです。」

- 上下水道の整備

→コレラ患者数のグラフ、文章資料、

③後藤新平を身近に感じ、働きの意味をとらえ直すことができる教材

- 後藤新平を身近に感じる事
→後藤新平の肉声（録音）帽子、眼鏡
- 働きの意味をとらえ直す事
→学習のまとめを掲示
→「復旧ではなく復興だ」という後藤新平の言葉の意味を考えさせる

（４）社会認識を深め、参画意識を培う指導の工夫

つかむ段階～教材との出会い～

- 被害の地図や写真から読み取ったことをもとに、当時の市民の人々の立場に立って思いや願いを考えたり書いたりする活動を行う
→市民の立場で考える（吹き出し）
- 児童から出される疑問を話し合いによって、広げたり深めたりする
- 後藤新平や協力者たちが、何を・どのように・どのような順番で復興させたのかを予想し、学習計画を立てる
→問題意識や追究の見通しをもつ（復興計画会議）

調べる段階～先人のはたらきについて知る～

- 写真や文章資料で調べたことをもとに、後藤新平の働きと思いや願いを関連づけて考え話し合う活動を行う
→後藤新平の立場で考える（吹き出し）

まとめる段階～思いや願いを考える～

- 後藤新平の立場に立って、復興祭の演説会の原稿を書く活動を行う
- 復興祭の写真を掲示し、その前で子供たちが考えた演説を発表し互いに聞き合う
→働きや苦心を共感的に考える（演説原稿）

ふかめる段階～東京都の一員として参画意識を高める～

- 後藤新平や先人の働き、思いや願いが現在の私達のくらす東京のまちづくりにつながっていることを理解する
→認識を深め、自分と結び付けて考える（後藤新平に向けた手紙）

(5) 社会認識の深まりや社会参画への思いを見取る評価の工夫

学習過程のそれぞれの段階で育てたい子供の姿を具体的に想定し、指導に生かすことにした。

社会認識の深まりや社会参画への思いを見取る評価の工夫	
つかむ	<p>○関東大震災により東京に大きな被害が起こったことや、復興に携わった人々の願いに基づいてつくられた東京のまちに関心をもっている。関・意・態</p> <p>○関東大震災の復興に際して、どのような願いをもち、どのようなまちづくりがなされたのかについて学習問題をつくり、学習計画を立てる。思・判・表</p> <p>《目指す具体的な児童の姿》</p> <p>自分たちのくらす東京を襲った関東大震災の甚大な被害から、わずか7年で東京のまちが復興したことに驚き、当時の人々の思いや願い、気付きや疑問を表現し合いながら問題意識を深め、後藤新平を中心とする当時の人々は、焼け野原からどのようにして東京を復興させていったのか、根拠のある予想を立てている。</p> <p>[期待する具体的な反応例]</p> <p>「(市民の立場) 関東大震災で私達のすむ東京のまちは大きな被害を受けた。もう二度と同じような思いはしたくない。燃えたり、壊れたりしないまちに住みたい。」</p> <p>「震災から7年後には東京のまちが立て直されている。そのために、後藤新平はどんな気持ちでどんなことをしたのだろうか。壊れにくい建物や橋をつくったのかな。逃げられる場所をつくったのかな。」</p>
調べる	<p>○写真や映像資料、地図や文章資料などを活用し、関東大震災の被害にあった人々の様子や先人の働きについて、必要な情報を集め、読み取っている。技</p> <p>○調べたことを図や絵などを活用し、分かりやすくノートにまとめている。技</p> <p>○地域社会の人々の願いや生活の向上と先人の働きや苦心を関連付けて考え、表現している。思・判・表</p> <p>《目指す具体的な児童の姿》</p> <p>後藤新平を中心に先人たちの業績や努力について、道路、橋、小学校・公園、下水道や住居を中心に資料を活用して調べ、その立場に立って思いや願いを吹き出しに表現し、交流し合いながら、事実認識をより確かなものとしている。</p> <p>[期待する具体的な反応例]</p> <p>「(後藤新平の立場) 整って燃えにくいまちにするために舗装されたきれいで広い道路をつくろうとした。予算を削られたり、もともと住んでいた人たちに反対されたりしても、なぜ必要なのかをあきらめずに説得し続けた。」</p> <p>「(後藤新平の立場) 関東大震災のときのような被害が二度と起きないようにするためには燃えにくくてくずれにくい橋をつくらなければならない。それだけでなく、デザインも工夫して景色のよいまちをつくりたい。」</p> <p>「(後藤新平の立場) 地域の人たちの避難場所や仲良く交流するための場所になるように燃えにくい小学校と公園をセットでつくった。未来を担う子どもたちには必要だからよりよい設備にしたのだ。」</p> <p>「(後藤新平の立場) 小学校はまちのみんなのもの。地震が起きた時に人々が避難してくることができるよう燃えにくい建物にしたい。それだけでなく、水洗も整った新しいデザインの建物にするとみんなのためのものになる。」</p>

ま と め る	<p>○関東大震災の復興における後藤新平の働きについて理解している。知・理</p> <p>○東京のまちを復興させるために努力した先人の働きによって、地域の人々の生活が向上してきたことを理解する。知・理</p> <p>《目指す具体的な児童の姿》</p> <p>調べたことを関連付け、未来を見据え、人々が安全に健康にらせる東京をつくろうとした後藤新平の業績、思いや願いについて理解し、当時の市民の人々の願いや生活の向上とのかかわりを考えながら、演説原稿にまとめている。</p> <p>[期待する具体的な反応例]</p> <p>「関東大震災から7年。計画通りにいかなかったり、反対されたりしたこともたくさんあったが、市民のためによりよい東京のまちができてうれしい。そして、市民の皆さんが喜んでくれていることがもっとうれしい。これからもこの東京のまちづくりをより進めていってほしい。」</p>
ふ か め る	<p>○後藤新平や復興に携わった人々の願いに基づいてつくられた東京のまちに関心をもっている。関・意・態</p> <p>○地域社会の人々の願いや生活の向上と、先人の働きや苦心、現在の人々の働きを関連付けて考え、表現している。思・判・表</p> <p>《目指す児童の姿》</p> <p>後藤新平の業績は今の東京都にもたくさん残り、その考えも受け継がれ、現在の人々によって、さらによりよいまちづくりが進められていることに気付き、よりよい東京都の未来像や、東京都の一員として、その一旦を担っていく自分たちの役割について考えを深めている。</p> <p>[期待する具体的な反応例]</p> <p>「後藤新平の立て直したものが現在の東京にも生きている。」</p> <p>「これからの私たちも後藤新平さんのように、未来のことを考え、みんなで話し合いながらよりよい東京のまちをつくっていききたい。」</p>

4 学習過程と主な展開

	主な学習活動	○A児の反応	○全体の反応 ☆分析
つ か む	<p>① 関東大震災が起こり大きな被害があったことを知り、当時の市民の気持ちや生活の様子、願いを吹き出しに書き、話し合う。</p> <p>② 震災後と復興後の写真の比較から、震災からの復興を目指して、後藤新平を中心</p>	<p>(市民の思い)</p> <p>○怖かった。家族のみんなは無事だろうか。これからどうしよう。</p> <p>○材料を木からレンガや石など今度は燃えたり崩れたりしないようにした。</p>	<p>(市民の思い)</p> <p>○怖かった。家族に会いたい。これからどうやって生きていけばいいのだろう。もう二度とこんなに大きな被害を受けないようにしたい。</p> <p>☆東日本大震災のイメージが子供の中に鮮明に残っているため、被害に遭った当時の市民の人々の気持ちを具体的に想像することができた。</p> <p>○がれきなどを協力して取り除いた。だれか中心者が盛り上げた。災害があったときに逃</p>

	<p>に先人たちが力を尽くしたことを知る。</p> <p>③ 後藤新平がどのような願いをもち、どのようなまちづくりをしたのかについて学習問題をつくる。</p>		<p>げられるようにした。</p>
	<p>後藤新平さんは、どのようにして東京のまちを立て直したのだろうか。</p> <p>④ 学習問題に対する予想をし、解決の見通しを持つ。</p> <div data-bbox="304 685 587 996" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習の計画</p> <p>① 道路</p> <p>② 橋</p> <p>③ 学校</p> <p>④ 下水道</p> <p>⑤ 建物</p> </div>	<p>○Aグループ</p> <p>道路：間を広げて逃げられるようにした。コンクリートにした。</p> <p>橋：鉄などで頑丈にし、幅を広くした。</p> <p>学校：鉄筋コンクリートにして避難階段をつくった。</p> <p>建物：コンクリートで丈夫にする。燃えにくくする。</p>	<p>☆震災前の東京、震災で被害を受けた東京、復興後の東京を比べたこと、復興計画会議という場を設定し、グループで話し合ったことで、解決の見通しを持つことができた。</p>
<p>調べる</p>	<p>⑤ 資料を活用し、道路整備、区画整理に当たった後藤新平や先人の働きについて調べる。</p> <p>⑥ 橋を立て直す。</p>	<p>(後藤新平の思い)</p> <p>○今立て直さないと、また同じことが起きてしまう。だから絶対にあきらめない。</p> <p>(後藤新平の思い)</p> <p>○橋の近くに大きな公園をつくれば、もしまた地震が起きたときも、市民が逃げられる。それに、普段は子供達が遊べる場所にもなる。</p>	<p>(後藤新平の思い)</p> <p>○市民に反対されても、永田市長のように賛成してくれる人もいるから一生懸命頑張る。</p> <p>○市民、市民の子孫のことを考えてやっているのだからあきらめない。</p> <p>(後藤新平の思い)</p> <p>○安全のために多くの資金をかけた。橋のデザインを変えて美しい橋にしたのは、様々な人を東京に集めるためだ。</p>

	<p>⑦ 復興小学校。</p> <p>⑧ 上下水道、住宅の整備。</p>	<p>(後藤新平の思い)</p> <p>○まず、安全、安心。それに衛生的。理科教育は理科をしっかり学んで、多くの人が将来いろいろなことで人の役に立つように。</p> <p>(市民の思い)</p> <p>○暮らしがよくなり、上下水道の整備のおかげで、コレラという病気がなくなる。良かった。</p>	<p>(後藤新平の思い)</p> <p>○小学校は教育の上で一番大事な役目をもっている。シャワー室や水洗トイレは子供たち清潔でいることの習慣をつけるため。理科室は、理科は医学につながるから医者になって多くの人を助けてほしいからだ。</p> <p>(市民の思い)</p> <p>○住宅が鉄筋コンクリートで頑丈に造られたので、また大きな地震が起きても大丈夫。それに、上下水道が整備されて水がきれいになったので、病気になることが少なくなるから安心。</p>
<p>☆最初は、後藤新平の立場に立って吹き出しに書くことが難しかった児童も、互いに交流し合い、回数を重ねるごとに表現できるようになった。また、耐震耐火に加え、衛生面や美観なども意識した後藤新平の理念も捉えられるようになった。</p>			
<p>まとめる</p>	<p>⑨ 後藤新平がめざしたまちづくりを理解し、思いや願いを考える。</p> <p>⑩ 後藤新平のまちづくりへの思いや願いについて、考えを深める。</p>	<p>児童の反応例</p> <p>市民のみなさん。私は後藤新平です。この復興計画が成功したのは、みなさんの協力のおかげです。私は復興の予算が減ったり、反対を受けたりして苦労しましたが、亡くなってしまった方への思いと、市民のみなさんや、みなさんの子孫が安全・安心してらせるようにという強い思いで、建物などを鉄筋コンクリートにしたり、よりよい学校を造ったりしました。これからもこの東京を大切にしたいと思っています。</p> <p>☆事例の羅列になってしまった子供への声かけや、発表をお互いに聞いたりする中で、中心概念に近づくことができた。</p>	

ふかめる	<p>⑪ 後藤新平の考え方と現在の東京都のまちづくりを比べ、これからの東京のまちづくりについて考える。</p> <p>⑫ 後藤新平に宛てて自分の考えを手紙に表現する。</p>	<p>《後藤新平の考え方と現在のまちづくりの共通点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物を頑丈にしているところ ・環境のことも考えているところ ・未来のことを考えているところ ・東京をよりよく進化させたいという思い <p>○地震が起きても電車が止まらないようにしたい。</p>	<p>○公園を増やして地震が起きたときにみんなが避難できる場所を増やしたい。</p> <p>○後藤さんのように、自分たちの子孫のことを考えていきたい。</p>
	<p>児童の反応例（後藤新平への手紙より）</p> <p>後藤新平さんへ</p> <p>東京をこんなに良くしてくれてありがとうございます。後藤さんのおかげで今の東京は水洗便所やガス、電気などもあり住みやすいです。今でも後藤さんに習って、さらに東京をよくしている方がいます。その方は さんという方です。 さんは昔よりさらに高くなった建物を、わざと揺らして倒れなくしたりして、私たちが住みやすいようにしてくれています。これからももっと東京をよくしていくので見守っててください。</p>		

5 成果と課題

成果

- 未来を見据えて復興を成し遂げた後藤新平を取り上げ、さらに「ふかめる」段階を設定し、現在のまちづくりに取り組む人を扱ったことの有効性。後藤の思いが現在に受け継がれていることを、現在の人の姿を通して捉えられたことが、よりよい地域社会及び、これからの自分について考えることにつながった。
- 時間的に子供たちと遠く離れた開発單元において、その時代に身をおいて当時の人々の立場に立って、思いや願いを考えさせることが大切。吹き出し・会議・演説・手紙など、その時間のねらいに応じた表現活動を取り入れることで、考えを深めることができた。

課題

- さらによりよい地域社会について考える子供に迫るために、つかむ段階から現在も残る復興建築を扱うなど、単元の構成を工夫することが今後の課題である。

〈参考にした図書〉

- 東京都市計画物語 越澤 明 ちくま学芸文庫 2001年
- 東京の都市計画 越澤 明 岩波新書 1991年
- 後藤新平～大震災と帝都復興～ 越澤 明 ちくま新書 2011年
- 明石小学校の建築～復校小学校のデザイン思想～ 監修 藤岡 洋保 東洋書店 2012年
- 震災復興～後藤新平の120日～ 藤原書店 2011年
- 雑誌 東京人～後藤新平～2007年10月 NO.245
- 後藤新平伝～未来を見つめて生きた明治人～ 著 星 亮一 平凡社

〈見学・調査に行った施設等〉

- 東京都慰霊堂・復興記念館 墨田区横綱2-3-25
- 市政会館 東京都千代田区日比谷公園1番3号
- 後藤新平記念館 岩手県奥州市水沢区大手町4-1

〈参考にしたホームページ〉

- 中央区立郷土天文館 地域 タイムドーム明石